

僕にできること

下松市立末武中学校二年三組 岩本 權

僕が生まれる前だった。平成七年一月十七日に阪神淡路大震災が起きた。母は兵庫県出身なので、今も神戸に行くところにある。たビルは倒れていたが、あそこは火事にならなかったとか教えてくれる。母は神戸から離れたところに住んでいた。大きな被害にあうことはなかった。よく僕たちには震災のことを話す。母はそのころ受験生

で大学入試センター試験を神戸大学で一月十六日に受けた。夕方まで試験があり、叔母の家にもう一泊するかどうか悩んだ。しかし、最終列車で帰宅した。翌朝、自宅で大きな揺れを感じて目を覚まし、テレビをつけたら前日までいた神戸の街の変わり果てた姿が映っていた。母の宿泊していた叔母の家も二階の部屋はつぶれ、あの日にもう一泊していたら、自らの命はなかつたという。そのため、僕たちに口うるさく災害にあった

時どうするか確認する。阪神淡路大震災の時  
は電話がつかずからなかったらうで、避難所  
なる中学校で集合しよう。もし外出中なら最  
寄りの避難所に行くようにと言われている。  
大雨などの災害時には僕の家は被害を受け  
ない場所にあるため、自宅に待機することに  
なる。両親が仕事で職場から帰れないかも  
しれないので、その時は保存してある水や缶  
詰を食べるようにと保存場所も把握している。

## 阪神淡路大震災だけでなく、東日本大震災

や熊本豪雨災害など、僕が生まれてからも  
くさんの災害が起きている。僕にそれを止  
める力はない。それを予想する力もない。僕  
にできることは、もし災害が発生した時に、  
自分を守るため行動することだけだ。毎年、  
阪神淡路大震災が発生した一月と東北大震災  
の発生した三月には、テレビをやってその悲惨  
さを思い出し、災害時について行動するかを家  
族で話し合っている。でも、それ以外の時期  
は、つい忘れてしまっている。少くく雨

が強くて、警報が出ていても、コンビニまで外出しようとしてしまった。たこともある。

僕の家には夏になるとヒマワリが咲く。小学校二年生の時に、兵庫県に住む叔母からヒマワリの種をもらった。た。「はるかのみまわり」である。「はるかのみまわり」は阪神淡路大震災で亡くなった小学校六年生の加藤はるかさんが見つかった場所に咲いていたヒマワリのことである。はるかさんの生まれ変わりとして、近所のおじさんとヒマワリの種を収穫し

たことから始まっている。そのヒマワリの種が日本中でリリースされている。僕はその種を叔母からもらい植えた。それから毎年収穫した種を庭に植えている。ヒマワリをみると震災のことを考える。その度に僕は僕のできることを考える。人のためにできることは何もないけれど、大人になったら何か災害の予防や、災害復興に携わることができるような人間になりたい。そのため僕が今できることは、僕の命を守ることだ。災害時にどうやって身を守るのか

を日ごろから確認しておくことだ。ヒマワリは僕に災害のことを思い出させてくれる。

阪神大震災の発生した一月、東北大震災の発生した三日、ヒマワリを植える六月、ヒマワリが咲く七月と八月に、僕は必ず災害時の対応を確認しようと思う。毎年のように発生するゲリラ豪雨、日本を直撃する台風が僕たちに襲ってくる災害は頻度も規模も増している。今僕にできることは、自分の命を守ることだ。将来、災害時に他人の命を守ること

ができるようになり大人になるため、生きるといふ  
けねばならない。日ごろから自分の命を守る  
ための行動をとれるような準備をしていこう  
と思おう。